

おはようございます。校長の倉崎です。

まずは、先ほど表彰した4名及び部員の皆さん、改めて受賞おめでとうございます。

終業式から27日という短い期間でしたが、勉強はもちろん、各種大会、研究発表、地域活動、中学生を迎えたオープンハイスクールなど、紹介しきれないほどの南高生の奮闘がありました。それは同時に、補習や面談、部活指導や大会運営などにがんばってくれた先生方や、何より、皆さんを支えるご家族の奮闘でもありました。心から感謝しています。

先日、高知で行われたインターハイ水泳競技では、2年・浅田君が自己ベストをマークしました。そしてちょうど今、愛媛では空手道男子が本番を迎えています。

私は、南高3年生2学期始業式の朝を今も覚えています。偶然ですが、その年もインターハイの会場は四国でした。南高サッカー部が、なんと全国3位入賞したことを、その朝初めて知ったのです。「フェリーの中でずっと寝とって叱られたわー」などと言いながら、私たちと一緒に必死で宿題を仕上げているサッカー部の友人が、なんだか一回り大きく見えたものです。

インターネットも瀬戸大橋もなかった時代の話です。それでも、短い夏休みが明けて仲間と再会し、これから学園祭や受験に向かって一緒にやっていくんだという心強さは、今も昔も変わらないのではないかと思います。

今年の朱雀祭のテーマは「**一新紀元**」。長く厳しい状況下にあっても、工夫しながら挑戦したい、世の中を覆いそな重苦しい空気を吹き飛ばし、大切な高校生活を切り拓いていきたい。そんな気概を感じる言葉です。

2学期は、南高の学びの目玉「**探究**」も本格化します。探究は学習の中だけでなく、朱雀祭にも、部活動にも存在するのではないのでしょうか。発見した課題に対し、仲間と話し合ったり調べたりしながら道筋をつけ解決を目指そうとする姿勢。当然、試行錯誤や失敗もあるでしょう。記録に残る結果ばかりではないかもしれません。

でも、南高という舞台上、南高ならではの強みを活かしながら仲間と共に探究する体験とその記憶は、必ずやあなた方が将来を歩んでいく原動力になると、私は信じています。

最後に。感染拡大が続くこの夏、思いがけず療養や自宅待機を余儀なくされた人がたくさんいます。不安や焦り、悔しさ、ご家族への思い——。それらは当事者でなければわからないものだと思います。ただ、100%の理解はできなくても、私たち人間は、「**心を寄せること**」「**想像すること**」ができます。また、つらい思いを味わった人は、いっそう、他者の痛みがわかるはずですよ。

さまざまな意見が飛び交い、つい誰かを、時には自分を責めてしまうような時代だからこそ、ひと呼吸置いてみましょう。人や出来事に心を寄せてみる、想像してみる。そこから何かが始まるかもしれません。

互いの心が安らぎ、心が喜ぶ*環境の中で、2学期を共に歩んでいきましょう。

それでは本日、令和4年度2学期を始めます。

*心（いのち）が喜ぶ

本校3年生が上映会を開いた映画「カンタ！ティモール」（2012:広田奈津子監督）の中の言葉です